

北海道浮魚ニュース

平成20(2008)年度12号(通巻 No.264)

2008年8月11日

北海道立水産試験場

ホームページ：http://www.fishexp.pref.hokkaido.jp/ukiuo/uki_index.htm

平成20年度北西太平洋サンマ長期漁海況予報発表される

8月6日に塩釜市において、平成20年度北西太平洋サンマ長期漁海況予報会議が開催され、予報文が発表されましたのでお知らせします。

なお、下記のホームページに、より詳細な予報文が掲載されていますので、ぜひご覧下さい。

水産庁 URL：<http://www.jfa.maff.go.jp//release/index.html>

【漁況予報】

予報期間：2008年8月～12月

対象海域：北西太平洋(道東沖から常磐沖)

対象漁業：サンマ棒受網

魚体：大きさは肉体長(体長)で表示し、便宜的に大型魚(29cm以上)、中型魚(24～29cm未満)および小型魚(20～24cm未満)と区分した。

来遊量

来遊量は昨年並みとなる。

魚体

漁期を通じて大型魚が主体となる。

漁期・漁場

大型船出漁後の漁場は、色丹島から択捉島沖に形成される。三陸海域への南下時期は昨年並みで、漁場形成は10月上旬になる。常磐海域での漁場形成は10月下旬となる。

解説

来遊量

2002年以降の東北区水産研究所による6月～7月の漁期前調査結果から、漁期前のサンマの分布は毎年東経155°以東で多いことが明らかになっている。また、サンマ棒受網漁船のCPUEは9月～10月にピークとなる。このことから6月～7月の沖合に分布していたサンマ群が、棒受網漁船の盛漁期に漁場へ来遊していると考えられる。

6月～7月に東経143°～西経165°の海域で東北区水産研究所(北海道教育庁北鳳丸(用船)、山口県立水産高校青海丸(用船))が中層トロールを用いて行った漁獲調査から、サンマの分布は今年も東経155°以東で多かった。同海域における推定資源尾数は396億尾であり、昨年の662億尾を下回ったものの、今年は大魚の割合が62%と昨年(22%)に比べ高かったため、推定資源量は483万トンと昨年(440万トン)並であった。

また、北海道立釧路水産試験場北辰丸が7月に北緯40°30'～46°30'、東経149°30'～162°30'で行った流し網調査では、流し網1反あたりの漁獲尾数は14.9尾であり、昨年(14.1尾)と同程度であった。

一方、6月～7月に東経150°以西で行われた岩手県水産技術センター岩手丸、宮城県水産技術総合センター拓洋丸、福島県水産試験場いわき丸、茨城県水産試験場いばらき丸、千葉県水産総合センター房総丸の調査では、昨年と同様に沿岸域での漁獲および魚群の発見は少なかった。

以上の漁期前調査の結果から、来遊量は昨年並みになる。

魚体

東北区水産研究所が6月～7月に行った漁期前調査結果では、調査海域全域で大型魚の割合が

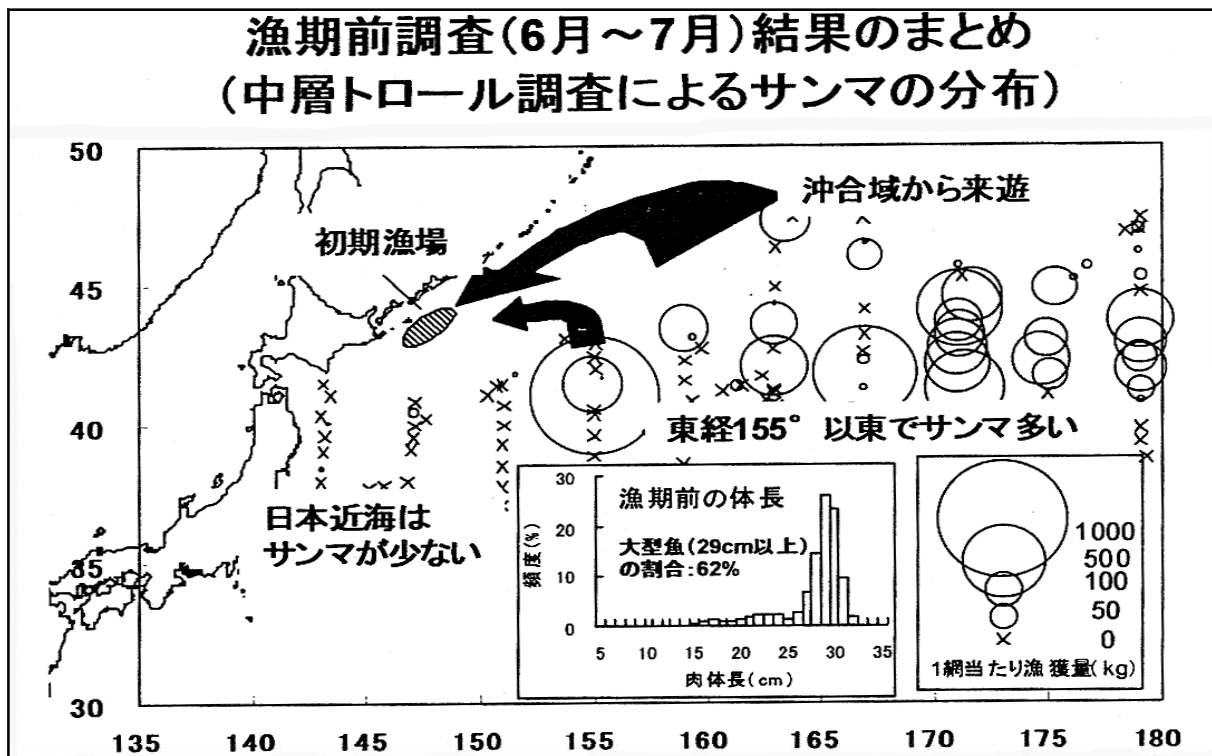
高かった。前述の通り、推定資源尾数に占める大型魚の割合は62%で昨年の22%を大きく上回り、2002年以降では2番目に高かった。また、北海道立釧路水産試験場北辰丸による流し網調査結果でも、大型魚の割合が86%と昨年（20%）より高かった。さらに、5月～7月に東経155°～160°の海域で開発調査センターが行った棒受網による試験操業の漁獲物も、大型魚主体であった。これらのことから、今漁期における漁獲物は大型魚が主体となる。

漁期・漁場

近年（過去5年間）の8月下旬における漁場の平均表面水温は15.0 であった。8月上旬現在、道東海域の北緯42°～43°、東経143°～146°における表面水温は12～16 であるが、例年8月下旬にかけてさらに上昇する。今年は道東～色丹島南の海域では昨年と比べ表面水温は高めで推移していることから、大型船出漁後の初漁場は昨年よりやや北側の色丹島から択捉島沖に形成される。

三陸海域（北緯41°30'以南、東経143°以西）の初漁場は過去10年のうち6回、10月上旬に形成されている。親潮第1分枝の張り出しは現況では平年並みであり、三陸沖の暖水塊は引き続き存在すると予測されるが、サンマの南下を阻む可能性が少ないことから、三陸海域における初漁場の形成は平年並みの10月上旬となる。

常磐海域（北緯38°以南）の初漁場は三陸海域の初漁場ができた1～2旬後に形成されることが多く、過去の10年のうち6回が10月下旬であった。今年は9月下旬には三陸南部沖に冷水域が分布し南下を阻む要因がないので、漁場は平年並みの10月下旬から形成される。



【 海況予報 】

予測期間：2008年8月～9月

対象海域：北西太平洋

親潮第1分枝の張り出しは平年並みであり、三陸沖に暖水塊は存在するものの、三陸～常磐近海に冷水域も持続する。

なお、海況の今後の見通しについては、下記のホームページを参照下さい。

東北区水産研究所（東北海区海況予報）

<http://tnfri.fra.affrc.go.jp/kaiyo/kaiyoubu/predict/index-j.html>

（文責：釧路水産試験場資源管理部、TEL：0154-23-6222、FAX：0154-23-6225）